



小島友実の あの馬の STORY

シェンフォン



2021年8月14日・小倉・2歳新馬戦・ゴール前

今野真一厩舎に所属する「シェンフォン」は現在、活躍が田立つものとなりました。この産駒、1歳募集時の牧場マスクを読むと、「シェンフォン」は元々骨量のあるタイプだったそうで、今野調教師は当時の印象を「振り返ります。

「馬体はそれほど大きくなかったのですが、骨格のバランスが整っていて、形の良い馬でした。走りのいい馬だなと感じましたね。」

昨年7月に栗東トレセンへ初入厩。ゲ

ート試験を1回目で合格すると、8月14日の小倉の芝1200メートル戦でトライコースました。

「入厩した時点では前向きで、気の良いタイプ。スタートセンスがありましたが、早い時期の小倉なら好勝負になると思って送り出しました。ただ、その初戦は雨が降って不良馬場。その影響で道中は手応えが良くなかったのです。それでも前々で運んだら頭に纏いつく着でしたから、頑張ってくれたと感じます。ボーナスヤルは良いものがあると成長していくければ結果が出てくれる感じました」

2戦目は「新馬戦の頃よりも気持ちの面で変わったところがあるので、距離を伸ばしました」とのことで、11月14日の阪神芝1600mに出走しました。

「道中は好位についたのですが、直線での切れ味勝負に負けてしまいました（13着）。この時の走りや血統から、ダートの方が良いかもしれない感じましたね。だから3戦目はダートに向かうたとえ

400メートル。結果は3着でした。

「やはりダートには向いてないと感じました。たまたま後方に重心がかかる状態でゲートが開けてしまい、後方からの競馬になってしまったものの、最後は上がり最速の脚を使い伸びてきましたが、バーバーストですぐ「勝ち上がりそう」という印象を持りました」

その後は練戦し、12月26日の阪神ダート1400メートルへ向かいました。

「中間のゲート練習の効果もあり、スタートを決めて、中団からのレースとなっていました。ただ、自分から勝ちに行くよう

競馬だと甘さが出てしまうのかなという感じでしたね。まだ、使う距離がないとい

うより、現段階では使い減りする面があるかもしれません。3戦目、4戦目は体重が減ってきており、体質面が伴っていな

い部分があるのだと思います」

牝馬として、飼葉食いが気にな

るのか、馬場でのシェンフォンはどうな感

じなのか伺いました。

「飼葉は食べますが、でもまだ食にな

てこない感じです。厩舎としては飼葉の

内容を工夫したり、カーフメントを抑え

たり、対策はしていなんですね。食べ

てはいるので、段々体重が増えていく事

を期待しています。この馬は普段から本

当にこう。素直に吸ってます」

4戦目の後は放牧へ出たシェンフォン。

現段階で今野師はこの馬の適性をどう

見ているのでしょうか。

「まだダートかと思えば、やはりダートでしそうですね。3戦目の走りが良かったのです。

「お父ダートかと思えば、やはりダートでしそうですね。3戦目の走りが良かつたのです。

まさか3戦目と4戦目に騎乗した田代成騎手はもう少し距離があつた方がいい感じたのですが、体力がついてれば距離の融通性が出ていいと思います」

そこで、今後の可能性についても聞いてみた。

「この馬の長所は骨格のバランスの良

さ。あるいは筋肉がついて、体质がいい

れば勝てると思います。持つてあるものは良くてね。まだ、素直な性格で走る以前

向き。スマート面に不安点が出ていない

もようです」

最後に復帰戦の田途について伺いました。

「今後の成長次第ですが、春になりますと体が変わってくると思います。ですから、3月頃に復帰できればいいと思います」

「トトに力強さが加われば、オーム

が変わって、おもむかの帰厩した段階で

の走りを見て、距離の選択をしていきた

いじゅね。1レース戦は残念な結果となり

しましたが、これからの良化の余地が

まだある馬です。僕もとても期待して

いる馬なので、今後も厩舎一同よろしく

つかう調整していきたいです」

シェンフォンの馬名の意味は中国語で

順風。父のドレフオの馬名の由来であ

る。逆風から連想されてくるとの事で

素敵な馬名ですね。今後、シェンフォン

は馬体の成長とともに逆風が吹き、順

風満帆な競走生活が続く事を期待したいですね。

（1月6日・電話取材）

profile

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（王婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。